

## レブンアツモリソウの概要

### 1. 分類

- ・被子植物 単子葉類 ラン科 レブンアツモリソウ  
(学名 *Cypripedium macranthos* var. *rebunense*)
- ・準絶滅危惧種 (環境省レッドリスト2025)  
※絶滅危惧IB類から令和7年にランクダウン



### 2. 形態的特徴及び生物学的特性

- ・日本固有種
- ・多年草の地生ランで、5月下旬～6月中旬に淡黄白（クリーム）色の大きく優美な花をつける。
- ・発芽及び生育には *Juniperus* 属の共生菌が関係していると考えられている。
- ・礼文島沿岸地域の適湿～やや乾性の明るい草原を主な生育地としている。

### 3. 分布状況

- ・北海道礼文島のみ分布する。

### 4. 現在の生育個体数

- ・約3,000を大きく越える生育個体数が見込まれる。ただし、生育個体数の調査方法が統一されておらず、詳細な生育個体数は把握できていない。

### 5. 生育を脅かす要因

- ・過去の主な衰退要因は盗掘であったが、関係機関の協働による盗掘防止対策により盗掘は、確認されていない状況が続いている。
- ・現在の主な衰退要因は、ササや高茎草本の繁茂による被陰であり、ササや高茎草本の刈り払いによる生育環境改善の取組が域内保全の取組の軸となっている。
- ・また、治山等により表土の攪乱機会が減少することも、衰退要因の一因となっている。

### 6. 保護増殖事業の概要及びその効果

- ・平成6年に国内希少野生動植物種に指定、平成8年に保護増殖事業計画を環境省と農林水産省とで共同策定。また、平成28年には保護増殖事業計画の確認を礼文町が受け、保護増殖事業を環境省、礼文町とともに実施している。
- ・群生地の一部（船泊地区1.7ha、鉄府地区4.6ha）を環境省所管地として管理。
- ・環境省、林野庁、礼文町による連携した巡視や立入り防止柵の整備等により盗掘は確認されていない状況が続いている。
- ・各生育地において、生育状況のモニタリングを行うとともに、一部の生育地では、効果

測定のモニタリングを行いつつ、ササや高茎草本の刈り払いなどの生育環境改善の取組を実施。

- ・今後の取組の方向性を示すロードマップを平成28年に策定。また、ロードマップを広く国民へ周知する目的でロードマップ概要版及びリーフレットを平成31年に作成、公表。
- ・ロードマップ策定後5年目となる令和2年度にロードマップの中間評価を実施し、その評価を踏まえて、令和4年4月に「レブンアツモリソウ保護増殖ロードマップ改定版」を策定。
- ・令和5年度には保護増殖事業対象の植物種としては初となるロードマップ公開版を公開し、初めて保護増殖検討会を公開で開催。
- ・令和6年度にこれまでの取組をまとめたレブンアツモリソウ保全リーフレットを作成。
- ・ロードマップ策定後9年目となる令和6年度にロードマップの評価を実施した。評価では、取組状況及び本種の生育状況について減少した生育地や、顕著な変化傾向がみられなかった生育地もあるが、大幅に開花数が増加した生育地が全体を引き上げる形で、総じて増加傾向を示しており、過去に主要な減少要因であった盗掘については対策が機能し、利用者の意識醸成も進んだとしている。その評価を踏まえて令和7年度に第二期ロードマップの策定を進めている。
- ・レブンアツモリソウの取組については保護活動だけではなく、本種の鑑賞スポットとして公開されている「レブンアツモリソウ群生地」、「レブンアツモリソウ群生地向かい」、「大備海岸」を中心に観光活用もなされており、島内有数の観光スポットとして花の時期に多くの観光客で賑わっている。

## 7. 他法令等による保護

- ・「レブンアツモリソウ群生地」は北海道の天然記念物、「礼文島桃岩付近一帯の野生植物」は国の天然記念物として指定されている。